



【新会長就任挨拶】

横須賀水交會会長 加藤 保



会員の皆様には平素から横須賀水交會の活動に多大なご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、平成30年度定期總會での承認を得て、中尾会長の後任として横須賀水交會会長に就任しました加藤保でございます。日頃から考えている一端を述べて就任の挨拶と致します。

横須賀水交會も発足から十七年を迎え、この間歴代会長及び会員の皆様の弛み無い尽力の成果を

得て、充実した基盤がさらに強化され、海上自衛隊に対する各種支援、会員相互の親睦・啓発、海上安全保障思想の普及更には慰霊顕彰等の諸活動に十分な成果を残してきました。

主な成果を振り返ってみますと、
①「政治的活動に関与せず」との旧弊を打破したことです。

具体的には、政治的団体にはない得ない防衛諸団体の有志からなる「防衛関連団体連絡協議会(防連協)」の行う国政或いは地方選挙活動に自衛隊OB会員はもとより多くの有志会員が参加し、多くの成果を収めていることです。この活動は、国政或いは地方選挙において極めて大きな実績を残し、地域社会に大きな影響を与えました。その結果、横須賀水交會が主催する諸行事への地域社会の首

発行 平成30年10月30日
編集 横須賀水交會事務局

長、国会・地方議員の参加が多くなるとともに地域社会の諸機関等からのアプローチも多くなりました。このことは、これらの活動を通じて横須賀水交會の地域社会における存在感と求心力が高まってきた証左であると思えます。
②会勢の拡充に成果を残していることです。

会員数を増やしていくことの重要性は、会員共通の理解でありますが、理解しているだけでは会員は増えません。横須賀水交會は、会勢の拡充に具体的な方針

○ 打算の排除 水交會入会は、特典を期待することではなく、自己犠牲と無償の行為による精神的な誇りを感じ得ること

○ 海自活動への理解 海自支援活動が水交會活動の第一の目的であることから、入会希望者にはまず海自活動への理解と興味を持って頂き、海自支援活動が我が国の安全保障への貢献に通じていることを

理解して頂く。を掲げ会勢拡充活動を強化してきた結果、会員数を増やしている唯一の支部となっています。(次頁に続く)

横須賀水交會主要行事予定

平成30年3月までの主要行事予定は、次のとおりです。なお、最新の情報は横須賀水交會ホームページ <http://y-suikokukai.daa.jp/>)にて御確認下さい。

1 幹事会

(1) 期日 12月12日(水)

場所 ホテルハーバー

時間 15:00 ~ 17:00

(2) 懇親会

場所 ホテルハーバー

時間 17:30 ~ 19:30

会費 5千円

2 賀詞交歓会

(1) 期日 1月12日(土)

(2) 場所 横須賀商工会議所

(3) 会費 4千円(男女同額)

3 靖国神社月例参拝

(1) 期日 2月21日(木)

(2) 場所 靖国神社等

③海自支援活動の具体化です。

我が国内外の安全保障環境の変化に伴い海上自衛隊の任務は多種多様化しており、部隊の活動は活発化の一途をたどっております。部隊活動に対する各種支援は本来海自の任務であります。海自自身よる支援が現状では十分でない部分或いは海自ではできない部分に対する横須賀水交會による支援は重要であり、横須賀地方総監部等と綿密な調整のうえ、留守家族支援等具体的な海自活動支援を行っていることです。

概観してきた成果は横須賀水交會の将来の道標でもあります。現在の状態に満足することなく、さらに強化発展させていくことが大切であると考えます。また、これから導きだされる重要なことが二つあります。

その第一は、横須賀水交會の存在と活動内容・意義についての理解の促進です。その対象は、自衛隊OB・有志会員、地域社会そして海自隊員です。

ファミリーサポート活動への会員参加が停滞しているのは、同活動

の意義に関する会員の理解促進が不十分であるとの証左であります。また自衛隊OBへの働きかけには限界がありますが、ここを進めないと自衛隊OB会員の増勢は望ま

せん。会員各員の同期や後輩への個人的な働きかけに期待するしかありません。さらに防連協活動を通じて地域社会からの理解は進んでいますが、横須賀水交會としても横須賀市や地域社会との交流を推進していく必要があります。最後に海自隊員の理解促進です。教育隊修業式で賞状を授与するにしても、部隊活動を支援するに

しても、支援を受ける隊員が水交會について理解していないようではその意義・効果についても半減してしまう結果となります。このように横須賀水交會への理解促進も対象者別に具体的な方策を考える必要があります。ここは会員皆様からお知恵を賜り、会員の皆様とともに努力を積み重ねていくことが大切であると考えます。

その第二は、目的達成のための具体的な活動の推進です。横須賀水交會の活動にはすべて

目的がありますから、この目的を達成できる具体的な方策を模索していく必要があります。特に海自の部隊活動に対する支援は、部隊の要望に沿ったより具体的なものとしていく必要が求められています。留守家族支援を強化していきますことを含めて総監部などを通じて部隊が必要としている支援内容を的確に把握していくことが重要であると考えています。まずは海自隊員との会話の機会の増大が第一歩なのかもしれません。

また横須賀水交會における活動は完全なボランティア活動であり、横須賀水交會は会員皆様のための会であります。会員の皆様には、横須賀水交會が企画実施する各種行事等へ積極的に参加して頂き、他の会員の皆様との親睦を深めて頂きたいと考えております。

最後に、先輩から受け継いだ横須賀水交會を少しでも進めて後輩へ誇りを持って引き渡すことができるよう努力していく所存でありますので一層の御指導・御鞭撻をお願い申し上げて挨拶とします。

【横須賀地方総監挨拶】

海将 渡邊 剛次郎



今年3月に第46代横須賀地方総監を拝命致しました渡邊です。横須賀水交會の皆様には、各種行事への温かいご支援、また、隊員の緊急登庁へのご協力をはじめ、平素から様々な御高配を賜っておりますことに、この場をお借り致しまして厚く御礼申し上げます。

さて、横須賀での生活は、防衛大学の4年間以来でありますが、横須賀の街を歩いていると、懐かしい故郷に戻ってきたような気分です。

また、帝国海軍・横須賀鎮守府時代から続く、長い歴史と伝統のあるこの横須賀において、横須賀地方総監として勤務できることは、大変光栄であるとして

もに、その重責に身の引き締まる思いでもあります。

皆様ご案内のとおり、横須賀地方隊は、岩手県から三重県に至る、地方隊で最大の警備区を担当しており、警戒監視、テロ対応等を含めた領域警備、大規模災害への即応、そして、機動運用を行う自衛艦隊の作戦基盤の維持をはじめ、広範囲にわたる重要な任務と責任を有しています。とりわけ、2020年に開催を控える東京オリンピック・パラリンピックにおける支援活動、また、いつ起きるかわからない首都直下型地震への海災部隊司令部としての対応等に備え、後方支援機能だけではなく、部隊指揮、運用能力の全力発揮のための態勢構築、訓練に努めているところです。

このような、多岐にわたる任務を遂行していく上で、私は着任以来「行き足」を指導方針としています。「行き足」とは、船が力強く前に進む様であり、船の舳先が波を切りながら、雄々しく大海原を突き進むように、また、カッターで、12人が力を合わせ、一漕ぎ一漕ぎ、ぐんぐん加速していくように、上級者は、率先垂範、「俺の背中を見て、ついてこい」と言える実力と指導力をもつて、若い者は、有言実行、常に「チャレンジ」の精神で、一人一人が生き生きと目を輝かせ、しっかりと前を見据え、勢いを持って進んでいくような地方隊でありたいと考えています。

また、副題として「目的と熱意の共有」を掲げました。かつて明治海軍は、日清、日露戦争において、「負ければ日本という国は、海外列強の属国となる。ここで負けるわけにはいかない」との強い目的意識と熱意が、指揮官から水兵に至るまで皆に共有され、その努力の結集が、不可能とも言われた大勝利に繋がってきました。現在、海上自衛隊が担っている役割も、「我が国の利益とプライド、国民の生活と安全、そしてその笑顔を守る」という意味において、なんら変わってはいないと思います。そのような「目的と熱意の共有」によつて、隊員が丸となった活動する、これこそが我々の継承しなければならぬ「海軍の伝統」であると考えています。

しかし一方で、近年の少子化、募集対象人口の減少傾向の中にあつて、今後多様化するであろう任務に着実に対応していくためには、隊員の確保とともに、その勤務環境を整えていくことが必要です。新隊員の募集対象年齢上限の引き上げ、元自衛官の再任用等の人事施策とともに、「働き方改革」等を通じた、効率的でメリハリのある勤務環境の構築、特に女性隊員が結婚、出産後も活躍できる環境の整備等に努めておりますので、皆様には、今後とも、隊員家族へのご支援、ご助言も含め、お力添えを賜ればと思います。

結びになりますが、横須賀水交会の益々の御発展と、会員の皆様の御健勝を心からお祈り申し上げますとともに、引き続きご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。御挨拶とさせていただきます。

【投稿】
「佐藤 優」 佐野 恭子



何とか彼の人間の魅力と快刀乱麻の活躍を伝えたい、ソ連と言う帝国が崩壊しロシアが生まれてくる歴史的瞬間に立ち会った彼の感動は、坂本龍馬の後ろで江戸の崩壊を見ているようだった事だろう。代表作として、彼が外務官僚として完成するまでを「先生と私」「紳士協定」に、クレムリンと外務省本省で北方四島返還に活躍した日々を「国家の罫」「自壊する帝国」「交渉術」に纏めている。

後者3作は2005年に東京拘置所出所後2年半、執行猶予中に出版され、「国策捜査」の言葉と共にベストセラーになった大作だ。彼が逮捕された2002年5月14日は勤務先の外交史料館には櫓が立ち、テレビ中継車が何台も止まり百人を越す記者が集まり上空をヘリコプターが舞った。「獄中記」には東京拘置所での512日に亘る西村尚久東京地方検察庁特捜部検事と言う「誠実で優れた、実に尊敬に値する敵」との対論が記されている。西村氏との出会いがなければ「国家の罫」は生まれなかったと言う。拘置所でのボールペンが汗で滑るほどの暑さ、大きい座布団の有り難さ、隣の死刑囚(偶然名前が解り、弁護士に頼んで彼の母上に様子を手紙にした)、夜の取り調べ室で涙したり、この作品を書き上げるのはとても苦しかったという。現在、佐藤優は言論界で縦横に活躍している。けれども初期の著作「紳士協定」の佐藤優は26歳のみずみずしい青年だ。

語学学校の指定でホームステイをして13歳のグレン君との「宿題を協力し合う協定」をする佐藤優の年少の者への暖かな思いやりは、彼の一番の本質と私は思う。モスクワでの活躍も、拘置所での扱いも、彼の人へ向かう時の暖かさ、真摯な、真剣な向かい方が無ければ生まれない。今回、彼の宗教人としてのロシア、リトアニアとの関わりや、インテリジェンスオプイサーとしての顔は断念して「命懸けで北方四島返還に関わった日々」だけに絞った。



「外務省の力が落ちていく」と言う彼の危惧を今年9月のウラジオストクの「東方経済フォーラム」で見た思いがする。プーチン大統領が両手を広げ、か

つてエリツインが橋本龍太郎、小淵恵三、森喜朗総理としたような「ロシア式挨拶」をしようとしていた所、安倍晋三総理はさつと入場してしまった。1997年のクラスノヤルスク会谈の前に専用機の中で橋本総理に右頬、左頬、唇にキスをするロシア式挨拶を佐藤優と鈴木宗男は実演して教えた。その映像は、ロシア国民に大きい親しみを抱かせた。プーチンはそっけない安倍総理の態度に「今、思いついたのだけど、年内にまったく前提なしで平和条約を締結したい」と、きつめのボールを投げたのかもしれない。それに對し日本政府は手もなく、ただ「不快感を表明した」とNHKが報じた。せっかくのプーチンの「ボール」を活かせなかったのか、その発言は予想できなかったのか。佐藤優自身「思いつきで」ロシア外務官僚が発したコメントを通訳した事がある。「交渉術」p.321「当時、日本大使館は政権中枢に最も食い込んでいる大使館として有名だった」

1993年モスクワ騒擾事件の武力行使でゴルバチョフからエリツインへ権力が移った直後で市場開放へ向けた改革が進んだ。西欧各国はゴルバチョフにしか人脈がなく、佐藤優はエリツイン側に豊かな人脈があつた。「渡邊幸治特命全権大使はエリツイン大統領の最側近であつたサコベツツ第一副首相と何時も会う事の出来るただ一人の大使だつた。サスコベツツはエリツインのサウナ友達で、「日本大使のワタナベはいい奴だ」と言い、また渡邊氏は気難しいので有名なコスチコフ大統領報道官の信頼を得ていた。北方四島周辺で日本漁船が操業を行う事に関する協定も、1994年10月その可能性についてサスコベツツが思いつきで、「四島周辺で互いの立場を傷つけずに操業する可能性を考えよう」と述べた事に、渡邊大使が「この問題には政治力のある人にしか解決できない。是非サスコベツツさんの御尽力で実現してほしい」と食らいついたことを契機に交渉が始まっ

た。この瞬間サスコベッツは「ほかの誰にもできないような四島周辺で日本の法的立場を害さずに日本漁船が操業するメカニズムを、自分の政治力で作り上げる」を自らの政治課題としたのである。」

モスクワで佐藤優が活躍できた理由の一つは首相通訳が務まる語学力、もう一つはソ連、ロシアにおいて宗教が政治に大きい影響力がある事から、同志社大で学んだ(修士)神学・哲学を通じた豊かな人脈を持てた。彼は深い信仰を持つクリスチャンでもある。佐藤優はソ連崩壊のシナリオを描いたゲンナジ・ブルブリス国家院議員に非常に可愛がられ、彼は自宅に佐藤優を招き解説した。

1992年宮澤喜一総理にエリツイン訪日の延期の報が入った。このドタキャンは日本側に責があったとされ、ブルブリスは「直前に訪露した渡辺美智雄外相のレトリックが失敗だった。渡辺美智雄外相は、ロシアがあれをすれば、日本はこれをして

やるが、もし、ロシアがあれをしないならば日本はこれをしないというプレゼンテーションを行った。エリツインは駆け引き外交を嫌う。日本側はエリツインの人物研究を徹底的に行わなければならぬ。ロシアで北方領土問題を解決できるのは大統領だけなのだ」「外交は駆け引きであり取引じゃないですか」「まあ、そう怒るな。マサルが俺に接近して来た時、最初は政治の話も日露交渉の話もしなかった。哲学や神学など、俺が関心を持っている情報の見返りを求めず提供し、俺の信頼を得ることに成功した」「計算によって人間的信頼関係が成立することはない」「解っている。何も見返りを求めず、相手の懐に入る事によって自己の利益を極大化するのが交渉の弁証法だ。エリツインに對して、日本としては北方四島を返還してほしい、四島と言うのが国民のコンセンサスですから二島とか三島と言う妥協はできませんと率直に言えばいい。その上で、日露経済協力で出来

る事はここまでです、と。そうすればエリツイン自身が何らかのリンケージを付ける」

1997年橋本龍太郎総理とエリツイン大統領は「東京宣言に基づき2000年までに平和条約を締結するよう全力を尽くす」と言うクラスノヤルスク合意を取り付けた。東京宣言とは択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島の帰属に関する問題を解決して平和条約を締結することだ。けれど1998年にロシアで金融危機が起き、四島返還に前向きであったエリツインの健康も急速に悪化した。彼は1999年任期を残してプーチン首相を大統領代行に指名し2000年大統領となったプーチンは鈴木宗男氏をクレムリンに呼んで将来の協力を約束した。けれどこの頃、外務省の機密費流用、密室外交と非難が起り2001年、小泉純一郎内閣が発足すると激しい鈴木宗男バッシングとなっていた。

今年2月八重洲ブックセンターの講演会で佐藤優を一番前で

見た。彼も私をしばらく凝視した。大きな目から、ただならぬエネルギーを注ぎ込まれた思いがして怖かった。彼は浦和高校、私は浦和第一女子高で、幼少期を書いた「先生と私」は身近な世界だ。彼の本の中で「それだから」と言う言葉が出てきたら京浜東北線の大宮―川口間の「方言」なので、彼が一気に書き上げたことが解る。彼の父は与野の市営住宅で、御自身の無線技士としての技能を教え、海外の電波を得て早くから「優君」は外国の言葉、文化に接していた。ご両親の献身は、中学校卒業の3月に北海道一人旅、高校1年の夏のソ連・東欧一人旅に出した勇氣にも感じられる。

少年時代、妹と捨て猫を拾い市営住宅で苦労して育てた。彼の猫好きは有名だ。



バルセロナで入港歓迎、見送り

大橋 文子



水交會旗を貸与していただき、有志2名、遠洋練習航海部隊バルセロナ寄港のお出迎えとお見送りに行つて参りました。

今回は残念ながら、「まきなみ」の修理の都合で、部隊のバルセロナ入港が予定より1日早まり、情報をいただいた時には、既に飛行機等の手配が間に合わなく、残念ながら入港をお出迎えする事が出来ませんでした。

入港歓迎行事は予定通りとのことで、7月28日(土)9時(現地時間)からの入港行事を目指し、私達は港へ向かいました。コロンブスの塔を過ぎたあたり

から、「かしま」の姿が見えてきて、3か月ぶりの再会に心が浮き立ちました。

入港歓迎行事には現地の日本人学校の生徒さん、領事館の方々、在留邦人の方に交じり、素敵な着姿のスペイン女性3名の姿も見られました。お話をうかがうと、日本へ留学経験のあるラウラさんという着付けの先生とその生徒さん達で、5年前の遠洋練習航海部隊バルセロナ寄港の際もお出迎えいただいたそうです。



その後、「かしま」、「まきなみ」共に行事参加者への見学の機会が設けられていました。「まきな

み」のマストには日本人学校の生徒達への歓迎の為に、金色に輝くこいのぼりが掲揚されていました。

のんびり見学をさせていただいた帰路、港近くにある海洋博物館から、研修を終えた実習幹部の皆さんが出てくるところに丁度行き会いました。異国の景色の中で見る白い制服姿はとても凛々しく感じられました。

幸運にも夕刻の艦上レセプションにも出席させていただきました。

5月の壮行会でお話した実習幹部の方と再会し、直前に訪れたサウジアラビアの事、今日訪れた海洋博物館の事など興味深い話を笑顔で伝えてくれました。彼らの真面目だけとおちゃめな話ぶりに、コミュニケーションも成長しているなあと頼もしく思いました。

29日(日)にはコロンブス広場にて、空手の実演、瑞祥太鼓演奏、音楽隊演奏が行われました。リハーサルの大鼓の音に誘われた現地の方、また、観光都

市バルセロナという事もあって、諸外国からの観光の家族連れなど多くの観客が広場に集まり、大変な盛況でした。とても暑い日中でしたが、それ以上に熱い演奏に、アンコールも切望され、また終了後は沢山の方から記念撮影を頼まれていて、大変な人気ぶりでした。



30日(月)には、わざわざお時間を作っていたいただき、泉司令官、「かしま」の金子艦長、首席幕僚加茂一等海佐、副官、薬剤士官、練習艦隊先任伍長北口海曹長、「かしま」先任伍長野上海曹長の7名の方と夕食を共にさ

せていただきました。とても楽しい夕食会で、皆様の柔らかい一面に触れることが出来ました。31日(火)、朝8時半に私達が港に到着した時には、着々と出港準備が進んでいました。スペインのタグボートは少しのんびりしているようにも思いましたが、まずは「まきなみ」が出港していきました。水交會旗を大きく掲げてお見送りさせていただきました。

そして、音楽隊の演奏する「蜚の光」に合わせ、「かしま」が岸壁を離れます。真っ白な制服姿の登舷礼、入船で停泊していた「かしま」は見送る私達の前で大きく回頭しました。朝の光の中その姿は優雅でとても美しかったです。

遠く港の出口のあたりまで、「かしま」には白い登舷礼の縁取りが認められました。

今回も応援とお礼の気持ちで、バルセロナを訪問いたしました。司令部、実習幹部、乗員の皆さんの職務に向き合う姿を見る事で、胸が熱くなる想いでした。



30.7.7 水交會旗貸与

いつも艦船を見て、楽しい気持ちになつている私ですが、外国の港で海上自衛隊の艦を見る事が出来る幸せを味わえるのも、長きにわたり外国との関係を深めながら実習航海をしてくださっているのおかげだと思います。

水交會の諸先輩方、今後ともご指導よろしくお願いいたします。

【特別転載記事】

「宮崎最高裁判事を訪ねて」

この度、日本弁護士連合会から同会が発行する新聞を紹介して頂きました。その紙面の中に、今年、最高裁判事に就任された宮崎裕子氏のインタビュー記事があり、海上自衛隊においても、女性の活躍が目覚ましい事から、日常関わりの薄い法曹界における女性の活躍を知る良い機会と考え転載する事にしました。

更に調べたところ、宮崎最高裁判事の父上君(宮崎富哉氏)は、海兵70期、零戦の操縦士かつ雷電のテストパイロットでもあり、戦後30年判事として日本の再建に御尽力され、60歳で弁護士を開業されたそうです。

宮崎最高裁判事は、「法廷には男女の差はない。」という富哉氏の言葉で、法曹界を志し、弁護士として赫々たる成果を上げ、この度最高裁登録されました。旧姓宮崎を名乗り、夫婦別姓問題にも一石を投じています。

今回、記事の転載につきましたは、

日本弁護士連合会、宮崎最高裁判事、好川 昭一弁護士の御協力を得て、実現したものです。紙面をお借りしまして、皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございます。

(石井 順 幹事 記)

宮崎最高裁判事を訪ねて

日本弁護士会新聞第533号30・6・1の一部をそのまま転載しました。)

本年1月9日付で就任した宮崎裕子最高裁判事を訪ね、現在の執務状況や今後の抱負などを伺いました。

(広報室囑託 本多基記)



法曹を目指した動機は

私が大学を卒業する頃は、男

女雇用機会均等法が制定される前で大卒女子の就職先が少なく、民間企業に就職することは難しい時代でした。そのような時代背景もあって、資格を取得して仕事をしたいと考えていました。高校生の頃までは、進路として医師など理系の仕事も考えていましたが、父が裁判官で法曹という職業になじみがあったため、法学部に進学しました。勉強するうちに裁判官になりたいと思うようになり、司法試験を受験しました。修習生になってしばらくして結婚することになり、転職のない弁護士を選びました。

最高裁判事就任前の仕事の

内容は

司法修習終了後、涉外事件を扱う都内の法律事務所に入所しました。入所4年後にハーバード・ロー・スクールに留学し、修了後は世界銀行に2年間勤務して東南アジアや中国などへの貸付案件に携わりました。その後日本に戻り、弁護士として活動しながら、通商産業省(当時)

の審議会の委員や東京大学法科大学院の客員教授、日弁連税制委員会委員、新司法試験審査委員(租税法)などを務めました。弁護士としてのキャリアの前半は主にM&Aなど企業法務に携わりましたが、徐々に税務関連の仕事の割合が増え、2000年前後頃からは税務関連の紛争案件を扱うようになり、法務経験も増えました。

現在の執務状況や1日の

過ごし方は

現在は、審議に加わるほか、記録を検討する日々で、就任して3か月(取材当時)ですが、まだ経験できていないことも多く、法廷経験もこれからです。波はあるものの、1日に検討しなければならぬ事件数がかなり多いことから、弁護士時代には外出しない日はほとんどなかったのですが、判事就任後は外出する機会が減りました。昼食で外出するのも週2回程度しかありません。

趣味を教えてください

歌舞伎は好きで月に1回ぐらい観劇をします。ゴスペルや読書も好きですが、判事就任後はなかなか時間が取れません。特に推理小説が好きで、小学生の頃からエラリー・クイーンの作品をよく読みました。少し落ちていたら、読書もしたいと思っています。

職務にあたり

心掛けていることは

弁護士になった頃から「木を見て森を見ず」にならないように心掛けています。多角的に物事を検討するということです。依頼者の言い分のみにとらわれず、相手方からの反論や裁判所の判断を見据えた多角的な視点を持って業務に臨むように心掛けていました。判事就任後もそのスタンスは変わらず、事件全体を多角的な視点で捉え、検討するように心掛けています。最高裁にはさまざまなバックグラウンドを持った判事がいますので、多角的な視点から議論がな

されます。物事を多角的な視点で検討するという点において、これまでのあらゆる経験が生きると思っています。

最高裁判事として

意識していることは

最高裁は、最終判断を任せられているのもさることながら、その判断内容が事例を超えた普遍的な判断として影響を持つことがあります。判決が実務に与える影響は非常に大きく、重大な責任を負っていると感じています。また、国民から理解され信頼される司法の実現が民主主義の実現につながる事から、判決には分かりやすい表現を用いなければならぬと考えています。



＊宮崎裕子最高裁判事の

プロフィール

1976年 東京大学法学部卒業
1977年 司法修習生
1979年 弁護士登録

(第一東京弁護士会)

1984年 ハーバード・
ロー・スクール修了

1984年 世界銀行法務部

カウンセラー

1993年 通商産業省

産業構造審議会委員

2004年 東京大学法科大学院

客員教授

2007年 日本弁護士連合会税制委

員会委員

2011年 新司法試験審査委員

2018年 最高裁判所判事



「横須賀市議会報告」

市議会議員・自衛隊OB・
幹事 木下 憲司



○議会改革ーこの一年

この一年間の議会改革について、
まとめてみたいと思います。平成
22年に横須賀市議会基本条例
を制定し、種々の改革を進めて
きました。市議会ではさらなる
改革を実行するため、昨年平成
29年からあらたな制度・枠組み
を制定し、今日に至っております。
この新たな改革を議会改革
第2ステージと位置づけて、鋭
意努力をしています。それらを
列挙すると、①政策検討会議の
設置(重要課題について、議員
相互の共通認識を図り、政策提
言等を行う)②課題別検討会議
の設置(政策検討会議で決定さ
れた課題を研究し、条例等を作

成する)③広報広聴会議の設置

(広報機能にとどまらず、広聴
機能を拡大強化する)④通年議
会制の導入(従来の年4回の定
例会を1回とし、その会期をほ
ぼ一年間とすることにより、議
会の即応性・機動性の向上を図
る)⑤災害時の議会対応(大規
模災害時の議会対応を想定して、
業務継続計画・災害時BCPを
策定、定期的な訓練を実施)で
す。政策検討会議・課題別検討
会議の具体的な成果として、「横
須賀市不良な生活環境の解消及
び発生の防止を図るための条例」
(注・いわゆる「ゴミ屋敷条例」)
(平成29年12月制定)及び「(仮
称)横須賀市がん克服条例」(平
成30年10月制定予定)、を議員
発議の条例として制定しました。



【参加行事等紹介】

1 馬門山海軍墓地墓前祭

第63回横須賀馬門山海軍墓地
墓前祭が、平成30年5月12日
(土)午前9時30分から約1時
間にわたって新緑鮮やかな同墓
地(横須賀市根岸町1丁目5番
地)において厳粛に執り行われ
ました。

前回同様、今回も遠洋練習航
海部隊の横須賀入港日と重なり
ましたが、入港歓迎関連諸行事
が同日の午後に計画されていた
ため、墓前祭は当初の予定どお
り挙行することができました。

墓前祭は、横須賀水交会、隊
友会横須賀支部、大津観光協会、
大津地区社会福祉協議会、大津
地区連合町内会の計5団体の共
催であり、当会会員も記帳、受
付、案内、進行補佐などを担当
して、式典の円滑な運営に大き
く貢献しました。

当日の天気も申し分なく、式
典が進むにつれて初夏を思わせ
る日差しがそそぎ、日陰が恋し
くなるほどでした。

参列者は、ご遺族並びにその関係者を始め、来賓として上地克明横須賀市長、古屋範子衆議院議員、木下憲司横須賀市議会議長、青木秀介横須賀市議會議員、海上自衛隊からは渡邊剛次郎横須賀地方総監、眞鍋浩二自衛艦隊司令部幕僚長、小座間善隆潜水艦隊司令部幕僚長、岩崎英俊第2術科学校長、島村雄司横須賀教育隊司令、染田良弘横須賀警備隊長、桑原正明横須賀基地業務隊司令、香月信一横須賀地方隊先任伍長、奥村和秋横須賀上級海曹会会長のほか、今回は横須賀所在部隊から新たに下淳市開発隊群司令、八木浩二



第1護衛隊群司令、白根勉掃海隊群司令、伍賀裕護衛艦隊司令部幕僚長も加わって、主催5団体それぞれの長・会員並びに一般参列者等を合わせ計約380名(内当会からは30名)であり、それぞれが祖国のために散華された英霊を追悼するとともに、わが国及び世界の恒久平和に祈りを捧げました。

墓前祭は、「国歌斉唱」に続き隊友会横須賀支部長及び横須賀市長の「追悼のことば」、「黙とう」、海自儀仗隊による「拝礼」及び「弔銃発射」、「献花」の順に行われました。

主催者を代表して大津觀光協会会長増田茂氏は、追悼のことばの中で、墓地に眠る御霊に追悼の意を捧げるとともに、今の日本の隆盛は、尊い犠牲が礎になつていふという事実を決して忘れないこと、さらに再び悲惨な歴史を繰り返すことがないよう決意を新たに平和への道を毅然と進むことを誓いました。

また、来賓代表の横須賀市長は、一昨年、港都市とともに、

横須賀が海軍文化を育んだ街として日本遺産に認定されたことを紹介し、これを機に平和を守るといふ強い意志をもつて市の発展に取り組むことで、国民の命綱として散華された御霊のご遺志を継いでいくと述べました。

馬門山海軍墓地には、軍艦「河内」、「筑波」等の殉職者、上海事変戦死者等、海軍軍人の英霊1592柱が殉職者之碑・個人墓等に祀られています。個人墓の古いものは設置されてから約130年が経過し損傷が激しく、一部には倒壊しているものもあつたことから、公益財団法人水交會(横須賀水交會が実務を担当)が、平成25年に半年間をかけて工事(対象墓石約235基を可能な限り元の状態に修復)を行っています。

このように墓地を適切に管理していくことが、馬門山海軍墓地の一層の周知を図り、平和と独立の尊さ、大切さを訪れた市民に訴えるものであることをよく認識する必要があります。

今回も海自横須賀音楽隊の積

極的な支援が得られました。音楽隊は、「君が代」、「国の鎮め」など式典最中の演奏のみならず、開式までの間に「巡検ラッパ」などを演奏し、墓地に眠る御霊を鎮めるとともに、会場を荘厳かつ和やかな雰囲気包んでくれました。

さらに湘南学院高等学校学生による受付や献花の支援もすつかり定着し、墓前祭には欠くことができなくなっています。このような活動に携わる若者たちが、御霊の遺志、参加者の思いを将来に継いでくれるに違いありません。なお、読売新聞、神奈川新聞及びジェイコム湘南がこれら墓前祭を取材しました。

最後に、準備や撤収を全面的に支援して頂いた横須賀教育隊隊員の皆さん、濟々たる動作で高い練度を示して頂いた横須賀警備隊儀仗隊の皆さんなど海自横須賀地方隊関係各位の絶大な支援に対して、主催各団体から深甚なる感謝の意が表されたことを付記します。

(濱田 幹事 記)

2 平成29年度練習艦隊

入港歓迎行事、壮行会、

歓迎夕食会

5月12日(土)、ヴェルニー公園では、鮮やかに薔薇が咲き、5月の爽やかな風が吹く中、練習艦隊(司令官 泉 博之海将補)が、近海練習航海で最後の総監部寄港地となる横須賀逸見岸壁に入港しました。

本年度の練習艦隊は練習艦

「かしま」、護衛艦「まきなみ」及び練習艦「しまゆき」の3隻で3月17日(土)に編成され、近海練習航海を実施しました。

今回横須賀に入港したのは、遠洋練習航海に従事する「かしま」(艦長 金子 純一1等海佐)、「まきなみ」(艦長 大日方孝行2等海佐)の2隻で、第68期一般幹部候補生課程修了者191名を乗せて逸見岸壁に接岸しました。

渡邊 剛次郎横須賀地方総監をはじめ各級指揮官等多くの隊員、上地 克明横須賀市長をはじめとした多くの来賓、各支援団体が、入場する練習艦隊司令

官をはじめ乗員及び実習幹部を迎ええました。

横須賀水交会からも多数の会員が自衛艦旗小旗・水交会旗を掲げ、横須賀入港を歓迎するとともに乗員の激励を行いました。

上地横須賀市長から「横須賀市民を代表し、心から歓迎します。滞在中は、十分に英気を養って下さい。」との歓迎挨拶で始まり、来賓紹介、祝電披露、花束贈呈と進み、最後に泉司令官から参列者に対する感謝の言葉とともに「今回の外洋練習航海に参加する実習幹部191名が立派に成長して帰ってくる事をお約束します。」と力強い挨拶があり、短い時間ではありましたが心のこもった歓迎行事が終了しました。



同日夕刻、「よこすか平安閣」において横須賀市長、横須賀市議会、横須賀防衛協会、横須賀商工会議所及び横須賀地方総監部共催の遠洋練習航海部隊壮行会が行われました。

壮行会は、主催者代表の上地横須賀市長(代読)の練習艦隊・実習幹部に対する激励から始まり、司令官及び実習幹部代表に対する花束贈呈、司令官及び横須賀出身実習幹部代表の挨拶と続いた後、木下憲司横須賀市議会議長の発声により高らかに乾杯が行われました。

実習幹部は多くの海自現役隊員、海自OBや支援者との歓談を通じて自分たちに対する期待の大きさを感じ、それに応えようとする意気込みが感じられました。

小山 満之介横須賀防衛協会会長の万歳三唱が行われ、その答礼万歳を「かしま」艦長が行い、大変盛り上がった中での終了となりました。参会者一同は実習幹部の前途を祝して万雷の拍手をもって見送りました。



壮行会終了後、場所を移して練習艦隊司令官、各艦長、先任伍長等を招待して横須賀水交会主催の歓迎夕食会が行われました。渡邊総監も参加された夕食会は、中尾会長、渡邊総監の挨拶、松崎 充宏顧問の乾杯の音頭で始まり、終始和やかな雰囲気の中で近海練習航海の労をねぎらいました。最後に長崎嘉徳顧問の万歳三唱でお開きとなりました。(石井 順 幹事 記)

3 平成30年度

遠洋練習航海部隊出国行事

平成30年度遠洋練習航海部隊、指揮官は練習艦隊司令官 泉博之海将補、派遣艦艇は練習艦「かしま」(艦長 金子純一 1等海佐)、護衛艦「まきなみ」(艦長大日方孝行 2等海佐)の2隻であり、派遣人員は、第69期一般幹部候補生課程修了者191名を含む584名。期間は、平成30年5月21日から10月30日。訪問予定国は、10か国、12寄港地(※)、総航程、約5万7千キロメートル(約3万1千マイル)です。



出国当日、爽やかな晴天の下、横須賀港逸見岸壁には早朝から多数の見送りの人々が集まって

きました。横須賀水交会からも中尾会長はじめ約20名を超える会員が参加しました。

午前10時から行なわれた出国行事は、白い制服の実習幹部が凛々しく整列する中、小野寺五典防衛大臣の実習幹部に対する「我が国を取り巻く安全保障環境は一層厳しさを増す中で、諸君の果たす役割に国民は大きな期待を寄せています。その事を強く自覚し、これから自分が成すべき事は何か、それには何を学ぶ必要があるのか、諸君一人ひとりが課題を持ってこの航海に臨んでもらいたい」との訓示から始まり、堀井学外務大臣政務官は、今回入港する国々の内、外交関係樹立が、インドネシア60周年、スペイン・スウェーデン150周年、メキシコ130周年、ハワイは日本で最初の組織的海外移民150周年という各2国間において重要な年であり、本遠洋練習航海は、実習幹部諸官の海上実習のみならず、訪問国に対する我が国の敬意と友好の意思を伝え、関係国との信頼

を深め友好関係をより強固なものとする、まさに積極的平和主義の実践として外交面においても極めて重要な意味を持つものであるとの祝辞、海上幕僚長の壮行の辞へと続きました。海上幕僚長は壮行の辞で、世界の海を見て世界の海軍と交流した諸君は、一回り大きくなつて10月に帰国することを海上自衛隊総員が、一日千秋の思いで待ち望んでいると述べられました。

その後、訪問国の駐日大使や武官等の来賓紹介、祝電披露、花束贈呈と続き、最後に泉司令官から、「関係各位の激励のお言葉、そしてご家族の方々のご声援を胸に元気に行つてまいります。」と力強い決意が述べられました。

実習幹部は、横須賀音楽隊が奏でる軍艦マーチに合わせて大きく手を振りながら行進し、颯爽とそれぞれの艦に乗り組み、最初の寄港地ジャカルタに向け出港して行きました。

(石井 順 幹事 記)

(※)・インドネシア(ジャカルタ)、アラブ首長国連邦(アブダビ、フジャイラ)、バーレーン(ミナサルマン)、サウジアラビア(ジッダ)、スペイン(バルセロナ)、英国(ポーツマス)、スウェーデン(ストックホルム)、フィンランド(ヘルシンキ)、アメリカ(ノーフォーク)、メキシコ(マンサニージョ)、アメリカ(ホノルル)



4 平成30年度「海軍の碑」

記念行事

横須賀水交會は、平成30年5月27日(日)に横須賀市ヴェルニー公園(JR横須賀駅前)内の「海軍の碑」前において、記念行事を行いました。

「海軍の碑」は、近代海軍創設とともに発展した軍港都市横須賀の歴史の象徴として平成7年11月17日、全国の海軍関係者及び有志の浄財により建立されたものです

本行事は、「海軍の碑」が建立された後、海軍記念日(明治38年(1905年)5月27日の日本海海戦を記念して制定されましたが、昭和20年(1945年)廃止)だったこの日に、横須賀海友会が主催して毎年行われてきましたが、平成14年以降は海友会と合同した当会が実施を担当しています。

当日は天気にも恵まれ、爽やかな風が吹く中での実施となり、参加者は約30名超でした。次第は、国旗及び軍艦旗の掲揚、海軍英霊に対する黙とう、「海軍の

碑」建立趣旨の朗読、中尾横須賀水交會会長の挨拶と進んだ後、木陰に移動し、長崎顧問から日露戦争の経緯、武士道精神の関わり、大正、昭和初期の帝国海軍そして海上自衛隊に流れる伝統などについて貴重な話がありました。続いて、かつて帝国海軍軍人として横須賀で勤務されていた相澤氏から、前回同様に出陣の軍港横須賀の様子についてご自身が作成した資料を使用したお話がありました。その後、鎮魂の譜として「同期の桜」「巡検ラツパ」「海ゆかば」の3曲を鑑賞し、国旗及び軍艦旗の降下をもって閉式となりました。



中尾会長は、挨拶の中で、有志各位及び当記念行事開催担当幹事等への感謝の意を示すとともに、「ここを何を感じるのかが大切な事であり、現在の位置に立つて過去100年の歴史を学び、そしてそれを将来どう生かしていくか、検証していくことが一番重要である。」と述べました。

短時間ではありましたが、海軍の偉業を偲びつつ、祖国のため散華された多くの御霊に対する追悼の念と平和の祈りを捧げる厳粛なひとときとなりました。(石井 順 幹事 記)

5 第36回横須賀水交會主催

ゴルフコンペ

6月4(月)、第36回横須賀水交會主催ゴルフコンペを千葉房総半島の南総ヒルズカントリークラブにて開催しました。

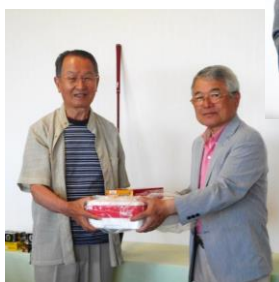
当日は、梅雨入り前にもかかわらず、初夏のような好天にめぐまれつつ団体は横須賀水交會のみでスムーズにプレーをすることができ、快適で楽しいコンペを実施することができました。

参加者は加藤新会長以下43名でした。

今回の成績は、大津雅紀氏がグロス80、ハンデキャップ7.2、ネット72.8で優勝、2位には西村義明氏(90、16.8、73.2)が、そして3位は初谷龍夫氏(96、22.8、73.2)がそれぞれ受賞という結果でした。



優勝した大津氏



準優勝の西村氏

優勝された大津さんは、「同期の迫さんにグロスで1打差及びませんでしたでしたが、楽しいゴルフができた」と優勝の弁を述べておられました。

ベストグロス賞には、レギュラーの部では幹事の迫幸一郎氏

がグロス79で、ベスグロス賞ウーマンには、斉藤 浩子氏がグロス107で、シニアの部では熊谷 昭吾氏がグロス83で受賞されました。

前回からパーティセットプランでプレーをして参加費を千円に抑え、賞品をゴルフ場に依頼し、バラエティーに富んだものになり好評でした。

水交會主催コンペは会員の親睦を目的としたゴルフ大会ですが、水交會会員のみなならず、陸海空自衛隊のOBや友人・知人・家族まで幅を広げて参加者を募り、水交會の活動に理解を深めていただければ幸いです。またこの中から水交會に入会していただければこのコンペの目的を十分に果たすことができますものと考えています。たくさんの方に声をかけて参加者を更に増やしていただくよう今後ともご協力の程よろしくお願いたします。(吉岡俊一幹事 記)



6 第31次派遣海賊対処行動

水上部隊護衛艦「いかづち」

出国行事参加

8月5日(日)、ソマリア沖・アデン湾において、海賊対処に当たる第31次水上部隊として、第1護衛隊司令 東 良子1佐を指揮官に、護衛艦「いかづち」(艦長 櫻井 敦2佐)乗組員約190名、同乗する海上保安官8名が、横須賀を出港しました。なお、東1佐は、海賊対処行動における初の女性派遣部隊指揮官です。

渡邊剛次郎横須賀地方総監執

行の出港行事では、防衛大臣及び自衛艦隊司令官の訓示、花束贈呈に引き続き、第1衛隊司令が、「総員が力を合わせ任務を遂行してまいります。」と力強く出港報告を行いました。



横須賀からの派遣は1年振りということもあり、横須賀市副市長、横須賀市議会議長、船主協会、米海軍、海上保安庁関係者、各級指揮官、隊員、家族、横須賀水交會などの防衛団体、地元関係者など多数が参加して盛大な見送りとなった。横須賀水交會からも30余名が、自衛艦旗小旗、水交會旗を掲げて見送りました。「いかづち」が岸壁を離れると超長音が鳴り響き、乗

員の帽振れにあわせて岸壁からの大きな声援が湾内を埋め尽くすなど、心に残る行事となりました。また、炎天下での行事のため、熱中症予防対策として水霧噴射や冷水のサーブスを行うなど総監部の細やかな気配りが感じられた行事でもありました。はるか遠いソマリア沖で、厳しい環境の下、長期間の活動になります。海洋使用の自由、海上交通の安全のため、ひいては日本のため日頃から鍛えてきた実力を遺憾なく発揮して頂きたいと願っております。任務達成と武運長久をお祈りします。

(石井 順 幹事 記)



7 横須賀地区

夏季防衛講座開催

8月11日(土)、横須賀地区防衛諸団体共催の横須賀夏季防衛講座が記念艦三笠大講堂において開催されました。講演第一部の講師は三浦 信祐 参議院議員、第二部が佐藤 正久 外務副大臣でした。当日は、今年の夏を象徴するような酷暑にもかかわらず、国会議員及び地方議員並びに31名の現職自衛官を始め、来賓、各団体会員等、約260名の聴講者が集まりました。

講演第一部では「私が考える三つの安全保障」と題して①「エネルギー安全保障」においては、エネルギー技術の争奪戦等、世界のすう勢を理解することが重要である。②「技術的安全保障(技術特許)」では、日本において早急に秘密特許制度を制定する必要がある。③「自衛官の後方支援的安全保障」では、自衛官OBの活用や、女性活躍社会への対応、人事管理環境の改善について専門的立場から、貴重な意見を聴くことができました。



第二部ではヒゲの隊長コト佐藤議員が、「守るべき人がいる」という演題で自らの体験を交えながら現役が口にはできない自衛官の現状について熱く語られました。十分な訓練こそが任務達成と隊員の命を守ることにつながるが、隊員は実任務で忙しく、更に充足率も低いことから訓練不足になっている。イラク派遣の際、訓練の重要性を身をもって体験しており、現地では、事前に準備をした以上の事は出来ない。自衛隊は日頃の厳しい訓練を通じて実力を着け、いざというときは、自己犠牲もいとわずに守るべき人を守る組織である。現場の自衛官が安心して勤

務に邁進できる環境づくりに努力していかねばならないと述べられました。



納涼懇親会は、場所を記念艦三笠の上甲板に移して行われました。小山横須賀防衛協会会長からの挨拶に引き続き、上地横須賀市長、渡邊横須賀地方総監及び古屋衆議院議員から御挨拶を頂きました。納富防衛大学校幹事による乾杯が終わると、講師の周りには、講演に対する感動の気持ちを伝えたい参加者が集まり、会は開始早々、大きな盛り上がりを見せました。また、会場のあちらこちらで防衛論議に花が咲いていました。



予定していた時間は瞬く間に過ぎ、深江高等工科学校長兼武山駐屯地司令から本講演で改めて学ぶことの大切さを知ったという挨拶とともに、万歳三唱の発声を頂き、名残惜しさのある中、散会となりました。

酷暑の中、講演会と懇親会が成功裏に終了することができたのは、横須賀隊友会を始め企画運営に携わった役員のおかげであると多くの参会者が感謝していたのでここに紹介します。(石井 順 幹事 記)

8 横須賀教育隊修業式に

おいて、横須賀水交會から 激励賞を授与

横須賀水交會は、8月22日(水)、横須賀教育隊第11期一般海曹候補生課程、第370期練習員課程及び第61期練習員(女性)課程の修業式において、成績優秀者4名(男性2名、女性2名)に対し、表彰状及び記念品を贈呈しました。

本表彰は、平成25年度は、横須賀水交會独自の事業として実

施されましたが、平成26年度からは、水交會全体の事業として全教育隊で実施されているものです。

当日は、第11期一般海曹候補生課程546名(男性・453名、女性・93名)、第370期練習員課程119名及び第61期練習員(女性)課程114名から選考された学生に対し贈呈されました。

本年度の修業式は、修業生数約780名、ご家族等約850名、部内外の来賓等約100名の参加となったことから海上自衛隊保有の体育館では参加者を収容できないため、陸上自衛隊武山駐屯地体育館を借用しての式典となりました。

連日、猛暑が続いていることから式典が例年より1時間繰り上げられ9時から開始、11時には見送りを含めたすべての行事が終了することとされましたが、実際には体育館内の気温は35度を超える状況にも係らず、式典が整齊と実施されたことは見事でした。

部内外の来賓や全国各地から来られたご家族等参列の下、加藤会長から激励賞が贈呈され、横須賀水交會の知名度向上に大きく貢献したものと思われまます。今回、以下の方々が表彰されました。

第11期一般海曹候補生課程

2等海士 吉 沢 一 真

(よしざわ かずま)

2等海士 篷 郷 礼 奈

(ほうごう れな)

第370期練習員課程

2等海士 押 手 晋

(おして しん)

第61期練習員(女性)課程

2等海士 葉 師 かれん

(やくし かれん)



また、今年度は、初任海曹課程(12月末・3月中旬修業予定)及び練習員課程(2月修業予定)の計3名に対する表彰も予定されています。

表彰された皆様を含め今回修業された隊員諸官が、部隊において更なる研鑽を積まれ、海の防人として大きく成長されることを横須賀水交會一同祈念しております。(清水 利広 幹事 記)

【トピックス】

1 「浜空鎮魂の碑」慰霊祭

平成30年4月1日(日)、浜空会(横浜海軍航空隊の会)は、横浜市金沢区富岡総合公園内の浜空神社跡地において、「浜空鎮魂の碑」慰霊祭を斉行されました。

当日は快晴に恵まれ、前日に満開となった桜が舞い散る中で、絶好の日和となり、関係者も安堵の思いで慰霊祭は進められました。

横浜海軍航空隊は、昭和11年10月1日にこの地に開設され、

その守護神として浜空神社が造営され、神社を中心とした広大な陸上の敷地と現在埋め立てられた根岸湾に水上の飛行艇発着場を保有していました。隊員約1,000名、大型飛行艇24機を有する海軍最大の飛行艇専門航空隊としてその威容を誇っていました。

慰霊祭には、遺族会、横須賀水交會、湘南水交會等の海自OB、及び昨年に引き続き現職隊員(自衛艦隊前任伍長 小瀧曹長、横須賀地方隊前任伍長 香月曹長)が休日を返上し、先人の尊い命を偲ぶため慰霊祭に駆けつけてくださいました。慰霊祭は、軍艦旗掲揚に引き続き、雷神社(追浜)秋山宮司による「修祓の儀、献饌の儀、玉串奉奠、撤饌の儀」が行われた後、軍艦旗降納を行い無事に終了しました。

捧げました。

横浜海軍航空隊は、昭和16年12月8日大東亜戦争が勃発するや、直ちに第一線に出動し、飛行艇の強大な航続力を發揮して洋上大遠距離の哨戒攻撃輸送救出作戦を展開し、ハワイ・インド・アリューシャン・豪州・ソロモンにわたる広大な戦域を駆け巡り勇戦奮闘しました。

作戦上、部隊名を801航空隊に変更し、戦争終期には兵力集中のため宅間航空隊に全飛行艇を集結して沖縄攻防戦に死闘を演じ、満身創痍全力を尽し果たして戦いの幕を閉じました。

中でも、横浜海軍航空隊はソロモン最前線のツラギに進撃作戦中に強力な敵の反撃を受け、昭和17年8月 宮崎司令以下338名が壮烈な玉砕を遂げられました。

毎年、慰霊祭に参加して思うことは、遙か彼方の異国において祖国や家族を思い、壮絶な戦いの中で散華された数えきれない英霊の思いが蘇り、私の胸が痛みます。

多くの戦史文献を眼のあたりによればするほど、当時の壮絶な戦いが蘇り海上自衛隊OBとしては胸が熱くなり、先人の英霊に対し敬意を表し今後も慰霊頭彰の火が絶えないよう快く行事に参加したいと強く心に刻んだ次第です。

祖国日本のために思いを馳せ、旅立ち、尊い命を捧げられた多くの御霊に永遠に慰霊を捧げられるよう、皆様のご協力をお願いいたします。

(副会長 高橋進)



2 靖国神社等月例参拝

6月21日(木)、恒例の靖国神社等月例参拝を実施しました。当日は、梅雨の時期で少し蒸し暑くなりましたが、何とか曇り空のまま推移して滞りなく参拝ができました。

水交會の月例参拝は、旧海軍及び海自OBを主体に行われています。今回、旧海軍出身者は、兵学校74期の堀江保雄氏以下、甲飛會、計7名、海自OBは、幹候6期の富田成昭氏以下クラス代表及び関係者を含め50名、その他有志5名、電子会1名、横須賀水交會16名及び水交會本部8名の合計86名でした。今回の横須賀水交會参加者は16名でしたが、今後も積極的な参加を呼びかけていきたいと思っております。今回は、2月です。月例参拝の参加及び初回参加者のお誘い、皆様のご理解とご協力を今後ともよろしく願います。

小堀邦夫宮司様からは、次のお話がありました。「新たに官司に就いて3か月あまり経過して何とか対応できるようになり

ました。「来年は、創立150周年を迎える節目の年になります。戦後70年以上が経過し、英霊と直接ご縁のあるご遺族・戦友各位が年々減少の一途を辿る中、国を思い、祖国を愛し、家族を慈しみつつ散華された英霊の御心を次の世代へ伝えていく努力をしていきます。」



その後、兵学校73期香川氏を総代として、参拝が行われました。

参拝終了後、それぞれ徒歩で千鳥ヶ淵戦没者墓苑まで移動しました。千鳥ヶ淵では(公財)千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会から、主に次の説明がありました。
①遺骨鑑定では、主に歯のDNAを用いている。鑑定で身元

が判明したのは帰還した遺骨の半分。②平成30年度厚生労働省主催の拜礼式が5月28日(月)、常陸宮殿下のご臨席を仰ぎ、千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて執り行われました



バスの送迎の支援を得て、防衛省慰霊碑に向かいました。到着後、わだつみの会会長の挨拶において、人生百年と言われるようになり、今後前向きに過ごしていきたいというお話がありました。

その後、直会参加者17名は各個に水交會本部へ移動し、直会が行われました。今回初めて参加されました湘南国際グループの吉田様から挨拶を頂き、その中で、陸自の勤務経験があるこ

とが紹介されました。盛況の中でお開きとなりました。

(大野 慶二 幹事 記)



3 ファミリーサポート会員、家族交流会に参加

7月21日(土)、横須賀地方総監部厚生センターにおいて、横須賀地方総監部主催の第4回ファミリーサポート(※)家族交流会が開催されました。

当日は、朝から30度を超える酷暑となり、厳しい環境でありましたが、予定していた総員が参加しました。

横須賀市におけるファミリーサポートセンター事業は、設立3年が経過しましたが、現在のところ、24時間態勢で子供を預かる市の施設は未だ整備されて

いません。海上自衛隊において緊急呼集が下令された際、両親が二人とも自衛隊員等で近くに子供を預けられるような親戚または、親しい友人宅等がない場合、子供達を預ける施設がないのです。そこで、横須賀水交會は、少しでも支援ができれば隊員家族の負担が軽減できるのではないかと考え、ファミリーサポート事業を行う事に踏み切ったのです。

横須賀水交會におけるファミリーサポートセンター(以下、「横須賀ファミサポ」という)は、2015年6月に開設され、現在会員は28名です。本施策に對して、理解者は増加しているものの会員登録をして頂ける方は極めて少ないのが現状です。

今回の参加者は、支援を希望する「依頼会員」3家族8名と、横須賀ファミサポ会員の21名及び総監部関係者が8名の合計37名でした。

厚生センター1階会議室において、総監部管理部長の挨拶に引き続き、ファミリーサポート

事業に関する説明があり、両会員にとって事業に対する再認識ができたと考えます。

その後、談話室において家族打ち合わせとして、マッチングされた「依頼会員」(隊員)と「提供会員」が各組に分かれ顔合わせ及び懇談が行われました。緊張の面持ちで打ち合わせが始まりましたが、時間の経過とともに和やかなムードとなりました。食べ物の嗜好や苦手な動物などの他、アレルギーや健康状態及びお互いの家庭環境を理解し合いました。今後は、依頼・提供両会員から要望や意見を聞き、それぞれの生活環境や勤務態勢に沿った支援活動が出来るよう柔軟なファミリーサポートセンターを目指したいと考えています。

ゲーム大会終了後に横須賀水交会加藤会長から挨拶があり、この施策の重要性と必要性について話をされ、また隊員に対する横須賀水交会の思いを参加された家族に伝え、家族交流会は終了しました。

横須賀水交会は、この施策が全国に普及することを願いつつ努力を重ね現在に至っています。まだまだ問題の解決には至っていない部分もあり、今後更に関係各所と連絡を密にとり、施策の向上に努める必要があると強く思う次第です。

最後に、横須賀ファミサポは、総監部の意向に沿って、今後もできる範囲で支援を継続し、依頼・提供両会員の募集を強化するとともに本施策の更なる充実を図るため、年間を通じ、規則の見直し・対応策の構築に努め、いざという時に本領発揮できるように努力を重ねていく所存です。

横須賀水交会会員皆様方には本施策の趣旨をご理解いただき、より多くの方がファミリーサポート会員として登録いただだけ

すようお願い申し上げます。

(高橋 進 副会長 記)

(*)ファミリーサポート

地域で行われているファミリーサポートは、正式には「ファミリー・サポート・センター事業」といい、子育てを地域で相互援助することを目的としている。内閣府の「地域子ども子育て支援事業」の一環として全国の市区町村で実施されているものである。



【お知らせ】

1 幹事会終了後の懇親会に参加してみませんか！

横須賀水交会では9月、12月及び3月に幹事会を開催しており、終了後には自衛官等をお招きして懇親会(夕食会形式)を実施しております。平成28年度からはこの懇親会に役員以外の会員の皆様にもご参加いただいております。これまで会員同士の交流機会が総会や賀詞交歓会などに限られていたことを解消するための試みですので、ふるってご参加ください。

開催日や懇親会会場、費用等につきましては、開催日の概ね1か月前に横須賀水交会ホームページ(当面の活動予定欄)に掲載いたしますので、参加を希望される会員はお手数ですがお葉書にて事務局までお申し込みください。

なお会場準備の都合もありませんので、申し込み及び変更につきましては開催日の10日前までに完了して頂くようお願いいたします。

葉書宛先…〒237-0046

横須賀市西逸見町1丁目無番地

横須賀地方総監部付

横須賀水交會事務局宛

記載事項…参加される方の氏名、

会員番号、連絡先

2 横須賀水交會 全会員用

メーリングゲストの新設について

さて、この度、かねてよりご

要望の多かった、「メールによる

会員の皆様への行事等のご案内」

を開始することとなりました。

つきましては、メーリングリス

トへの登録を希望される方は次

の要領でご登録をお願いいた

します。

① 登録用アドレス

memberlist_regist@y-ikoukai.

sakura.ne.jp

② 登録内容

(例)

(1) 氏名…海尾 護

(2) 会員番号…0174183

(3) メールアドレス

uniomamor@gmail.com

※登録アドレスは、お一人につき1アドレスとさせていただきます

きます。

何かご不明な点がございましたら、登録アドレスへご一報

ください。以上、よろしくお願

いたします。

(檜森 晃治 幹事 記)

叙勲受章者(春の叙勲)

次の会員の方が叙勲を受けら

れました。(敬称略)

瑞宝大綬章 齊藤 隆

瑞宝中綬章 荒川 堯一

道家 一成

瑞宝小綬章 河邊 博

谷津 憲司

矢野 圭吾

危険業務従事者叙勲

瑞宝単綬章 小林 猛

(本多 一雄 事務局長 記)

訃報

4月本紙発行以降、次の会員

が逝去されました。謹んでお悔

やみ申し上げます。(敬称略)

柳幸 士朗 平成30年10月2日

(本多 一雄 事務局長 記)



新(編)入会員

30年2月〜30年9月

次の方々が横須賀水交會に新

たに入会(編入)されました。

(敬称略)

夏川 英二(有志) 濫澤 衡一

(有志) 小川 亮祐(有志)

東郷 宏重(幹候34) 天野

寛雅(幹候33) 井上 司(幹候35)

榊 正敏(有志) 永井 澄生(幹

候34) 藤原 実知也(幹候35)

石原 こずえ(有志) 道満

誠一(幹候33) 春山 和弘(有

志) 萩原 一裕(有志) 西澤

俊樹(幹候39) 角田 達也(有

志) 渡邊 啓二(有志) 池田

徳重(幹候35) 三浦 昌伸(幹

候33) 矢野 幸浩(幹候37)

新倉 成是(有志) 高橋 雄(幹

候59) 國本 嘉光(有志) 金村

雅美(有志) 山本 ともひろ(有

志) 稲垣 雅子(有志) 石見

次郎(幹候25) 笠井 まり(有

志) 中西 正人(幹候34) 井上

公俊(医歯幹候18) 吉野 敦(幹

候36) 加世田 孝行(幹候37)

松村 啓輔(有志)

(桂 眞彦 幹事 記)

【編集後記】

今回は、初挑戦として、転載

記事に挑戦してみました。それ

も、個人的には全く繋がり無し

の「日本弁護士会」の発行する

新聞のインタビュ記事です。

インタビュされた御本人には

もちろん、日本弁護士会との調

整も行いました。また、自分一

人では、困難でしたので、弁護

士先生の御指導も頂きながら実

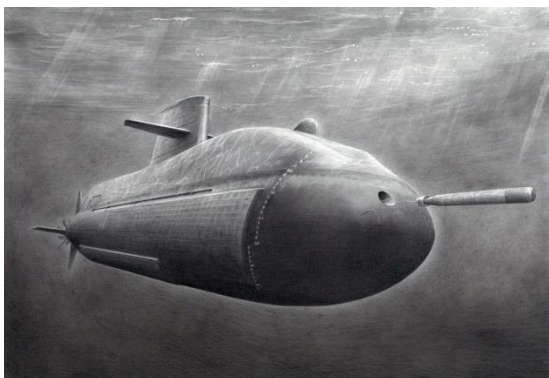
現に向け挑戦しました。

皆様も色々な挑戦をされてい

ると思いますが、「横須賀水交

會新聞」への投稿に挑戦して

みませんか？(編集担当 石井)



「潜水艦おやしお型」

菅野 泰紀 有志会員